

2023 年度 学校法人 三幸学園 札幌こども専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小島 健太郎

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1)退学率低減、生徒満足度向上のための取り組み

◆退学率 5.0%以内 結果：退学者：47名（2023年度 53名）退学率：8.3%（2022年度最終：10.0%）

オンラインから対面授業への復活に向けて、「チーム・ペア担任制」2年目として前年度の課題を改善できるよう取り組んだ。担任間での迅速な情報共有、自クラスの授業見学の強化、特待生として入学した生徒が中心となりクラス内の交流を深めるランチミーティング。退学するか悩んでいる生徒に対して担任以外の教員が面談を実施する対応等。様々な取組みの結果、前年度に比べて退学率 1.7% 減少と一定の効果はあった。

◆学校生活アンケート(問18)あなたは本校に入学して良かったですか？

3.3 以上 結果：3.07（2022年度：3.13）

「チーム・ペア担任制」がうまく機能したクラスとそうでないクラスの差が大きかった。担任がホームルーム以外に授業をもち授業力向上と授業満足度向上を図ったが、授業準備が負担となり、生徒の悩みや気持ちの変化にすぐに対応することができず、期待していた効果を得ることができなかった。「全道から愛され必要とされる学校づくり」を目標に掲げて、3年前より学校運営をしてきているが、学校生活アンケート結果だけを見ると3年前から比べて減少傾向にあるため、原因を精査して改善に取り組んでいきたい。

(2)再実習者を減らすための取り組み

◆再実習者の割合

△こども総合学科 3学年：2%以内（2022年度 2.5%）**3.9%**

△こども総合学科 2学年：5%以内（2022年度 6.3%）**7.6%**

▼保育科 2学年（小田原短期大学併修あり）：4%以内（2022年度 4.2%）**0.6%**

▼保育科 2学年（保育士のみ）：6%以内（2022年度 8.3%）**1.6%**

実習への Step を見える化し、目標を具体化する。学生も教科教員もエリア担当、担任も意識を同じくできる仕組みを作った（セルフチェックシート実施）。ホームルーム等で実習の意識づけを実施し、生徒の意欲向上を図る。（主に実習ガイダンス等行事にて意識づけ実施）支援が必要な生徒へのサポート体制構築（こどもアカデミーの実施）等の対策を実施した。

(3)本校のイメージ UP と認知拡大の取組み

他校との明確な差別化を図るために、地域住民の皆様から愛され必要とされる取組みを実施(子育て支援・SDGs・あそびのひろば・ボランティア活動)。入学者が減少している実態があるため、保育科(2年制)とこども総合学科(3年制)の異なる魅力の発信、入学したいと思える学校の雰囲気の構築・生徒一人一人に合わせたあきらめない教育の取組みを入学希望者に伝わるよう工夫して、広報活動を実施した。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

1)業界のニーズの把握は、尽きることがないので、地域との連携や情報収集強化は常に必要。

② 今後の改善方策

①生徒に対しても、入学時の説明で上記については説明を行い、周知を図る。

業界のニーズを把握する点は、“エリア担当”が実習巡回時に業界ニーズを収集することで、常に最新の業界の動きを把握し、本校姉妹校合同会議等にて検討し、カリキュラム作成にも生かしていく。また、地域とのかかわりを強化するべく、訪問を数多くおこない、業界の動きに柔軟に対応し続ける。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事・給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- 1)情報システム化については、infoClipper という学生管理システムと、SANKOGATE という学内ポータルサイトを使用して授業の効率化・成績の効率化を図っているが、連動の不具合への対応や、現場での出欠把握と入力内容のチェック機能についてはまだ改善の余地がある。
- 2)コンプライアンスについては、認識を統一するなど、より一層意識を向上させる必要がある。

② 今後の改善方策

①システムの効率化が図れる一方、公認欠席等で出欠情報がのちに変更になる際の手順が定着していない。現在は教科教員による入力と、担任による確認作業が複雑となっているため、確認作業を事務の一本化をして着実な管理ができるよう改善を図る。

②コンプライアンスについては、全国の事例を共有する機会を設け、意識が低下しないよう学ぶ機会を増やす。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

1)教職員向けの研修の実施回数を検討。

教職員向けの研修は、三幸学園全体として積極的に学べる環境となっているが、関連分野に限るとまだできることがある。実習先からいただいた情報の収集と活用がまだ不十分であるため、巡回や訪問の仕方を見直し、保育施設との関係性の構築を図り、実習生に求めることや保育現場の現状を掴み、適宜研修等を実施し、生徒指導に生かしていきたい。

② 今後の改善方策

①全体会議にて教職員向けに研修を行う

②就職・実習にて関連企業にご意見いただいたことを共有する場として、定期的に勉強会を開き、保育に関する情報知識を全メンバーが身に着けられるようにしていく。

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- 1) 年間を通して退学率の改善が図れなかった。中でも「人間関係」「目標喪失」を理由に退学をする生徒も増えている。
- 2) 就職後について、全国で卒業生向けのアンケートを実施し定着率等を測っているが、実際には早期退職者がどのくらいいるのかが把握しきれていない。また、卒業生の状況を把握する機会が少ないため、教育活動に反映させられていません。

② 今後の改善方策

①対人関係の悩みが増えることの退学防止策としてシングル担任制を定着させ、生徒の悩みに迅速に対応できるようにする。またカウンセリング体制を整え、オフィスアワーによる個別対応の実施や、放課後フォローアップによる学習の遅れを防止、クラス替え廃止等の検討も行う。

②退職者の数値データの把握をし、就職後に想定できるギャップ、人間関係、早期退職のリスクなど、現場経験者からの体験も含め働くことのやりがいを伝える機会を増やす。

③卒業生と交流する機会を設け、情報を把握できるように引き続き分析を行い、効果的な新しい対策を打ち出していく。

③ 特記事項

特になし

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- 1) 求人票データ化を実施。生徒・卒業生は SANKOGATE にて随時確認できるようにしていったが、求人情報の更新をタイムリーに行えるよう改善が必要。
 2) 卒業後のサポートシステムを活用しきれていない。

② 今後の改善方策

- ① 求人情報を滞りなく、原則即日発信できる仕組みを作る。
 ② 卒業生向けには同窓会 sankolink、または SANKOGATE を活用し、求職者への呼びかけなどちらからも発信していく。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- 1) 教育環境の向上を目的に新しく校舎を建てたが、校舎が増えることにより、生徒対応に目が行き届かない場面もあった。

② 今後の改善方策

- ① 空き教室の活用方法を考え、より良い教育環境を提供できるよう工夫していく。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

1) 18歳人口減少に伴い、来校者が例年に比べ減少している。

② 今後の改善方策

①保育業界や学校の魅力を伝える機会を増やすための、体験内容や見学会の企画検討、また質の高い教育の提供を職員一人ひとりが意識を持ち、自信を持って学生募集活動ができる状態をつくる。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価による問題点に対し、改善内容が目標に達していない項目もある。

② 今後の改善方策

問題の分析と改善点の見直しを継続して行う。

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

1)産学連携では、あそびの広場が「札幌市」(こども未来局子育て支援課)と「札幌市教育委員会」(教育委員会生涯学習推進課)で後援許可をいただき、広く告知ができているが、参加者が少ない日もある。

② 今後の改善方策

①各保育施設や広告期間(ラジオ・新聞社)ヘチラシを配布し、あそびの広場の取り組みについて広めていく

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・担任の先生と話す時間がもっと欲しかったので、できる限り教室に顔を出してほしいと思っていた。また、授業の一環でエプロンシアターの作成・実践を行っていたため、クラスメイトの前で披露をするという耐性ができていたおかげで子どもたちの前でも滞りなく実施することができた。更に欲を言えば、活動と活動の合間にできるペーパーサート、スケッチブックシアター等があるといいと思う。今後は、更に実践的な授業がもっとあってもいい。例えば先生がこどもになりきって生徒が教員役を演じるなどといったものがあると良い。
- ・学校の教育内容については姉妹校だからこそ理解している部分もあるが、札幌市内の学校全てについて理解しているわけではないので、進学後に思っていたものと違ったというギャップを感じることがないように、高校側としても進学後の目指すべき人物像に目を向けて、生徒本人のやりたい道に向かうことができる環境を作りたいと思う。今後もし可能であれば高校教員を招いた学校説明を実施すると良いのではないか。
- ・入寮している札幌こども専門学校の学生たちの印象としては、特に元気な挨拶をしてくれている印象である。それはきっと学校で基本的なマナーの指導をしている成果だと感じた。今後も一人でも多くの卒業生を送り出していただきたいと感じている。
- ・いただいたご意見を活かし、より良い学校運営ができるよう、今後も尽力していきたい。

以 上